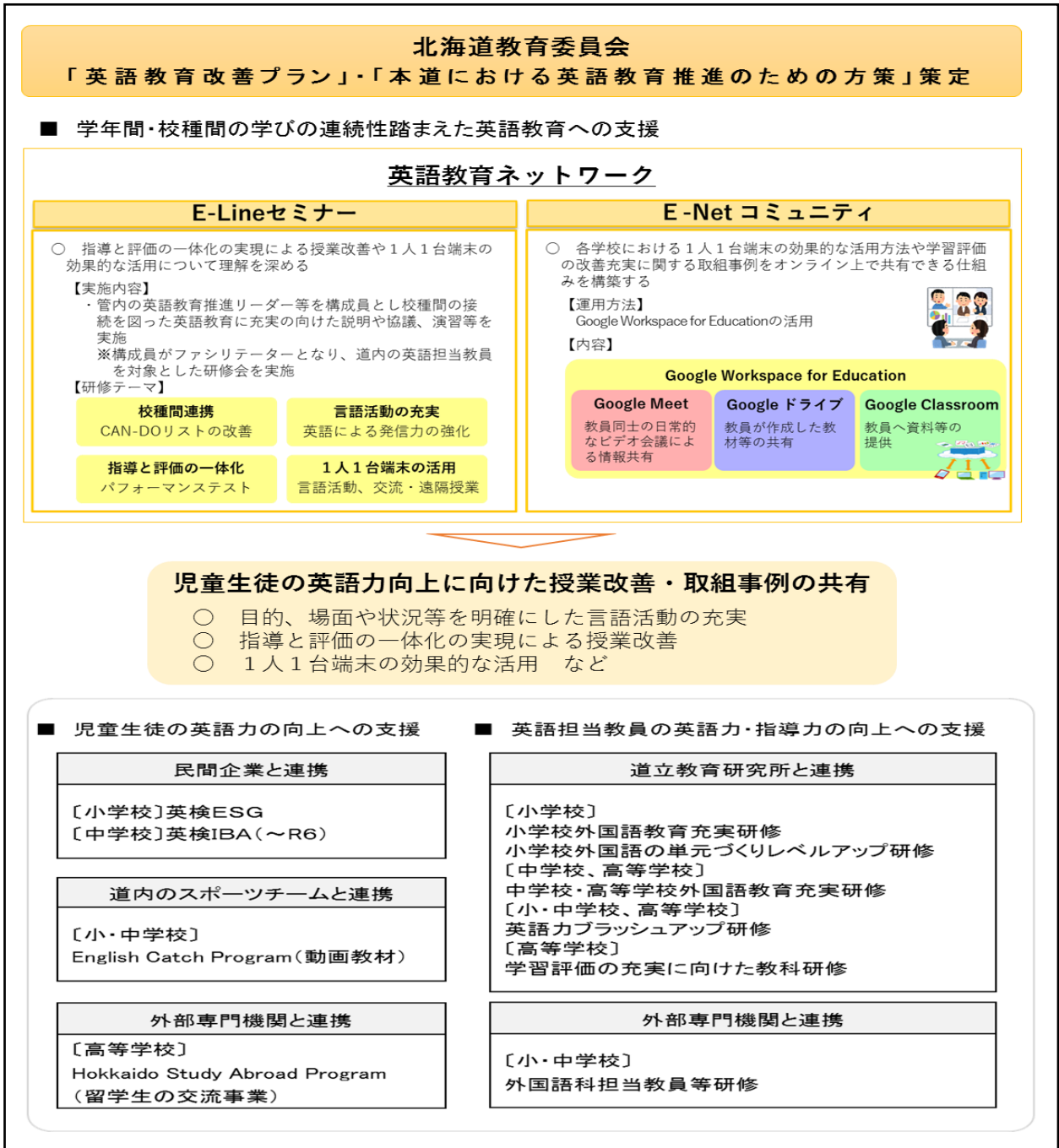


北海道英語教育改善プラン

実施内容

(1) 目標を達成するための取組を実施する体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標

- 「英語教育実施状況調査」を踏まえた現状
- 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を設定している学校の割合
小学校：94.1%、中学校：100.0%、高等学校：100.0%
 - 求められる英語力を有する生徒の割合
中学校：47.4%、高等学校：44.1%
 - 授業においておおむね（授業時間の75%以上）言語活動を行っている学校（教員）の割合
小学校第6学年：50.8%、中学校第3学年：28.4%、
高等学校第3学年（コミュニケーション英語Ⅰ）：23.2%
 - 校種間連携（交流）を行っている学校の割合
中学校（小学校と連携）：72.3%
高等学校（小学校と連携）：20.7%、高等学校（中学校と連携）：29.8%
 - 校種間連携を図ったカリキュラムや学習到達目標の設定をしている学校の割合
中学校（小学校と連携）：31.4% 高等学校（小学校や中学校と連携）：5.8%
 - 児童生徒がP C等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を行っている学校の割合
小学校：88.5%、中学校：91.0%、高等学校：62.5%
- 本道における重点課題
- ① **校種間連携を図った「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の作成及び学習評価の改善**
 本道の全ての中学校、高等学校において「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を作成しており、小学校においても、9割以上の学校で作成している。一方、校種間連携（交流）の状況については、小・中学校間で約7割、中学校、高等学校間で約3割であり、校種間連携を図った学習到達目標を設定している中学校は約3割、高等学校は1割未満にとどまるなど、学びの連続性を意識した学習指導が不十分な状況が見られる。
 こうした状況を踏まえ、オンラインを活用した日常的な情報交換を通して、校種間の系統性を踏まえた学習到達目標を設定し、言語活動の充実を図った授業改善を推進する必要がある。
- また、中学校においては、全道全ての中学生を対象とした「英検 I B A (RL)」の実施により、生徒の英語に対する学習意欲の向上が図られ、求められる英語力を有する生徒の割合が増加したものの、依然として5割に達していない状況が見られることから、「英検 I B A」のスコアやCAN-DOリストに基づくパフォーマンステストの結果などを活用し、外部検定試験の資格を取得していない生徒の英語力を適切に評価する必要がある。
- ② **I C Tを効果的に活用した言語活動の充実**
 G I G Aスクール構想により小・中学校に1人1台端末が整備されたことから、端末を用いた発表や、発表の様子を録画し振り返る活動、キーボード入力等で書く活動などを実施している学校の割合は昨年度と比べて増加したものの、オンラインで遠隔地の児童生徒との交流などに取り組む学校の割合は低い状況が見られる。
 こうした状況を踏まえ、オンラインを活用し、I C Tを効果的に活用した言語活動の充実につながる研究会等や、道内の優れた実践を共有する機会を設定する必要がある。

①「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況の割合																	
〔現状・課題〕	○ 全校種において、ほぼ全ての学校で目標を設定しているものの、児童生徒と目標を共有し、日常の学習指導や評価に関連付けた活用が十分でない状況が見られる。達成状況を適切に把握するとともに、校種間の系統性を踏まえた目標を設定する必要がある。																
〔目標〕	○ 「何ができるようになるか」という目標を児童生徒と共有し、学習指導や評価に効果的に活用することができる。 〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定</td> <td>100.0% (94.1%)</td> <td>100.0% (100.0%)</td> <td>100.0% (100.0%)</td> </tr> <tr> <td>公表</td> <td>70.0% (42.3%)</td> <td>100.0% (48.4%)</td> <td>100.0% (69.0%)</td> </tr> <tr> <td>達成状況の把握</td> <td>100.0% (74.0%)</td> <td>100.0% (81.2%)</td> <td>100.0% (82.3%)</td> </tr> </tbody> </table>		小学校	中学校	高等学校	設定	100.0% (94.1%)	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)	公表	70.0% (42.3%)	100.0% (48.4%)	100.0% (69.0%)	達成状況の把握	100.0% (74.0%)	100.0% (81.2%)	100.0% (82.3%)
	小学校	中学校	高等学校														
設定	100.0% (94.1%)	100.0% (100.0%)	100.0% (100.0%)														
公表	70.0% (42.3%)	100.0% (48.4%)	100.0% (69.0%)														
達成状況の把握	100.0% (74.0%)	100.0% (81.2%)	100.0% (82.3%)														
〔方策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ オンラインを活用した学習到達目標に関する協議や取組事例の共有 ○ 「Hokkaido CAN-DOリスト」に基づく小・中学校、高等学校の系統的な「CAN-DOリスト」の整備や、「CAN-DOリスト」の活用による指導と評価の一体化の充実に向けた指導助言 ○ 高等学校授業改善セミナー（10～12月）及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会（11月）における指導と評価の一体化による授業改善に向けた研究協議及び指導助言 ○ 高等学校「学力テスト（道独自）」による状況把握及び授業改善の促進 ○ 道立教育研究所と連携し、学習到達目標に関する研修の実施 ○ 小中連携を踏まえた英語専科指導教員の指導力向上研修の実施 																
〔検証〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 																
②生徒の授業における英語による言語活動を行う時間の割合																	
〔現状・課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校では9割以上、中学校で約8割の学校が授業時間の半分以上の時間を言語活動に費やしていることから、児童生徒が思考する活動や、言語活動を行うための目的や場面、状況の適切な設定、ICT端末の効果的な活用など、言語活動の質を向上させる必要がある。 ○ 高等学校においては、7割程度の教員が授業時間の半分以上の時間を言語活動に費やしていることから、言語活動の質を向上させる必要がある。 ○ 全校種において、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたスピーキングの指導方法について、指導助言する必要がある。 																
〔目標〕	○ 言語活動を行う目的や場面、状況に応じて、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うことができる。 〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業に占める言語活動の割合（半分以上の時間、言語活動を行っている）</td> <td>100.0% (95.6%)</td> <td>100.0% (82.5%)</td> <td>100.0% (73.1%)</td> </tr> </tbody> </table>		小学校	中学校	高等学校	授業に占める言語活動の割合（半分以上の時間、言語活動を行っている）	100.0% (95.6%)	100.0% (82.5%)	100.0% (73.1%)								
	小学校	中学校	高等学校														
授業に占める言語活動の割合（半分以上の時間、言語活動を行っている）	100.0% (95.6%)	100.0% (82.5%)	100.0% (73.1%)														
〔方策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「E-Lineセミナー」において、言語活動の充実に向けた協議を実施 ○ 「E-Netコミュニティ」を活用し、各学校における取組事例等の共有や、日常的なビデオ会議による情報提供の取組を実施 ○ デジタル教科書や、1人1台端末を活用した授業改善への支援 																

<p>[検 証]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道内のスポーツチーム等と連携した動画教材の作成 ○ 「小・中・高等学校英語教育支援事業実践事例」や「教育課程編成の手引（道教委作成）」等を活用し、各種研修等における指導助言 ○ 高等学校授業改善セミナー（10～12月）及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会（11月）における指導と評価の一体化による授業改善に向けた研究協議及び指導助言 ○ 道立教育研究所や民間企業と連携し、生徒の発話を促す言語活動の在り方に関する研修の実施 ○ 小中連携を踏まえた英語専科指導教員の指導力向上研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 「E-Lineセミナー」における教員用アンケート（2月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 									
<p>③パフォーマンステストの実施状況</p>										
<p>[現状・課題]</p> <p>[目 標]</p> <p>[方 策]</p> <p>[検 証]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校においては、ほぼ全ての学校においてパフォーマンステストを実施しているものの、指導と評価が適切に結び付いていない状況が見られることから、指導と評価の一体化の実現に向け、パフォーマンステストの内容や実施方法の工夫改善を図るよう指導助言する必要がある。 ○ 高等学校においては、ほぼ全ての学校でパフォーマンステストを実施しているが、約4割の学校においては、スピーキングテストのみまたはライティングテストのみの実施に留まっていることから、全ての学校において、適切な評価がなされるよう指導助言する必要がある。 <p>○ 「英語を用いて何ができるか」という観点に基づき、生徒の英語力を適切に把握することができる。</p> <p>[2022年：数値指標（2021年：達成値）]</p> <table border="1" data-bbox="400 1198 1235 1323" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;"></th> <th style="width: 33%;">中学校</th> <th style="width: 33%;">高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スピーキングテスト</td> <td>5.0回（4.6回）</td> <td>5.0回（3.8回）</td> </tr> <tr> <td>ライティングテスト</td> <td>4.0回（2.6回）</td> <td>4.0回（1.8回）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※高等学校の2021年達成値は、コミュニケーション英語Ⅰにおける実施回数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「E-Lineセミナー」において、学習評価の説明・協議を実施 ○ 「E-Netコミュニティ」を活用し、各学校における取組事例等の共有や、日常的なビデオ会議による情報提供を実施 ○ 「パフォーマンステストハンドブック」や「教育課程編成の手引（道教委作成）」を活用し、各種研修等における指導助言 ○ 高等学校授業改善セミナー（10～12月）及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会（11月）における授業改善に向けた研究協議及び指導助言 ○ 高等学校「学力テスト（道独自）」による現状把握を踏まえたパフォーマンステストの実施方法等に関する周知と実施の促進 ○ 道立教育研究所と連携し、指導と評価の一体化に関する研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 「E-Lineセミナー」における教員用アンケート（2月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 		中学校	高等学校	スピーキングテスト	5.0回（4.6回）	5.0回（3.8回）	ライティングテスト	4.0回（2.6回）	4.0回（1.8回）
	中学校	高等学校								
スピーキングテスト	5.0回（4.6回）	5.0回（3.8回）								
ライティングテスト	4.0回（2.6回）	4.0回（1.8回）								

④英語担当教員の授業における英語使用状況								
〔現状・課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校においては、英語担当教員の英語使用が不十分なため、児童生徒の英語による発話につながらない状況が見られたことから、児童生徒の言語活動の充実に向け、英語による発話を積極的に行うよう指導する必要がある。 ○ 高等学校においては、一定程度、授業を英語で行うことが定着しているが、未だ授業における英語の発話が半分未満の教員もいることから、生徒が英語に触れる機会を十分にもつことができるよう指導助言する必要がある。 							
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の英語使用を促すことができるよう、児童生徒の実態を踏まえ、教員が授業中に積極的に英語を使用することができる。 <p>〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%;">中学校</th> <th style="width: 25%;">高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業の半分以上の発話を英語で行っている教員の割合</td> <td>100.0% (83.3%)</td> <td>85.0% (76.0%)</td> </tr> </tbody> </table>			中学校	高等学校	授業の半分以上の発話を英語で行っている教員の割合	100.0% (83.3%)	85.0% (76.0%)
	中学校	高等学校						
授業の半分以上の発話を英語で行っている教員の割合	100.0% (83.3%)	85.0% (76.0%)						
〔方策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「E-Lineセミナー」において、言語活動の充実に向けた協議を実施 ○ 「E-Netコミュニティ」を活用し、各学校における取組事例等の共有や、日常的なビデオ会議による情報提供を実施 ○ 1人1台端末の活用による言語活動の充実に向けた授業改善への支援 ○ 「教育課程編成の手引（道教委作成）」等を活用し、各種研修等における指導助言 ○ 道立教育研究所や大学等の外部専門機関と連携し、生徒の発話を促す言語活動の在り方に関する研修の実施 							
〔検証〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 							
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合								
〔現状・課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校においては、英語担当教員が生徒の英語使用を促すことにつなげる発話を十分に行っていないなかったり、生徒の発話を適切にリキャストすることができななかったりする状況が見られることから、教員が英語使用を積極的に行う目的について理解を深めるとともに、資格取得を促進する必要がある。 ○ 高等学校においては、特に、教員全体の半数近くを占める50～60代の資格取得率が低いほか、20代の資格取得率も全体と比べて低いことから、資格未取得の教員に対する資格取得を一層促進する必要がある。 							
〔目標〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の英語使用を促すことができるよう、生徒の実態を踏まえ、教員が授業中に積極的に英語を使用することができる。 <p>〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%;">中学校</th> <th style="width: 25%;">高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合</td> <td>50.0% (38.7%)</td> <td>75.0% (52.5%)</td> </tr> </tbody> </table>			中学校	高等学校	CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合	50.0% (38.7%)	75.0% (52.5%)
	中学校	高等学校						
CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合	50.0% (38.7%)	75.0% (52.5%)						
〔方策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道立教育研究所や民間企業と連携し、教員の英語力・指導力の向上に向けた研修の実施 ○ 外部検定試験の助成制度に関するリーフレット作成し各学校へ周知 ○ 校長会や英語教育研究団体等と連携を図った資格取得の啓発 							
〔検証〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 							

⑥求められる英語力を有する生徒の割合							
〔現状・課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校においては、外部検定試験（英検 I B A）や英語教育実施状況調査結果から、英語による発信力に課題が見られたことから、発信力の育成に向けた授業改善を推進する必要がある。また、パフォーマンステスト等を活用して生徒の英語力を適切に評価する必要がある。 ○ 高等学校においては、目標には到達していないものの、着実に生徒の英語力が向上している。特に、実際にCEFR A2以上を取得している生徒の割合が向上している。 						
〔目 標〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高等学校卒業段階において英語で少なくとも日常的なコミュニケーションができる力を育成する。 <p>〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 25%;">中学校</th> <th style="width: 25%;">高等学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>求められる英語力を有すると思われる生徒の割合</td> <td>50.0% (47.4%)</td> <td>50.0% (44.1%)</td> </tr> </tbody> </table>		中学校	高等学校	求められる英語力を有すると思われる生徒の割合	50.0% (47.4%)	50.0% (44.1%)
	中学校	高等学校					
求められる英語力を有すると思われる生徒の割合	50.0% (47.4%)	50.0% (44.1%)					
〔方 策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「E-Lineセミナー」において、生徒の発信力の強化に向けた協議を実施 ○ 「E-Netコミュニティ」を活用し、各学校における取組事例等の共有や、日常的なビデオ会議による情報提供を実施 ○ デジタル教科書や動画教材など、1人1台端末を日常的に活用した言語活動の充実に向けた授業改善への支援 ○ 英検 I B Aなどの活用による指導と評価の一体化の充実に向けた指導助言 ○ 「小・中・高等学校英語教育支援事業実践事例」や「教育課程編成の手引（道教委作成）」等を活用し、各種研修等における指導助言 ○ 高等学校授業改善セミナー（10～12月）及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会（11月）における授業改善に向けた研究協議及び指導助言 ○ 道立教育研究所や民間企業と連携し、教員の経験年数を応じた研修の実施（教員の実態や地域の状況に応じ、集合研修やオンライン研修、オンデマンド研修など、多様な研修会の充実） 						
〔検 証〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育実施状況調査（12月） ○ 各教育局による学校訪問（通年） 						
⑦新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合							
〔現状・課題〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校における新規採用者においては、教員採用選考第1次検査の加点及び第2次検査の免除などを実施したことにより、一定の英語力を有する教員の採用数が増加傾向にある。 						
〔目 標〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けて、より質の高い英語教育を行うことができるよう、小学校における教員の英語力向上を図る。 <p>〔2022年：数値指標（2021年：達成値）〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 50%;">小学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語力を有する者の割合</td> <td>23.0% (10.8%)</td> </tr> </tbody> </table>		小学校	英語力を有する者の割合	23.0% (10.8%)		
	小学校						
英語力を有する者の割合	23.0% (10.8%)						
〔方 策〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員採用選考検査において、小学校教諭の区分で受検し資格等を有する者について、申請により第2次検査のリスニング検査の免除及び、第1次検査の加点を実施。 <p>【リスニング検査の免除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校又は高等学校英語の教育職員免許状所有者 						

<p>〔検 証〕 ○ 教員採用選考検査における受検状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実用英語技能検定準1級以上の合格者 ・ TOEFL iBT82点以上取得者 ・ TOEIC L&R/TOEIC S&W1560点以上取得者 ※TOEIC S&Wのスコアを2.5倍して合算したスコア <p>【第1次検査の加点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記リスニング検査の免除に係る資格等を有する者 ・ 在外教育施設等や海外の民間企業等で2年以上の英語を使用した勤務経験のある者 ・ 海外の大学で2年以上の英語を使用した留学経験がある者 ・ 青年海外協力隊の隊員として、2年以上の派遣実績を有する者
---------------------------------	--

(3) 研修の体系と内容の具体

<p>□ E-Lineセミナー</p> <p>〔目的〕 指導と評価の一体化の実現による授業改善や1人1台端末の効果的な活用について理解を深める。</p> <p>〔対象〕 小・中学校の英語担当教員</p> <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校種間連携 ～CAN-DOリストの改善 ・ 言語活動の充実 ～英語による発信力の強化 ・ 指導と評価の一体化～パフォーマンステスト ・ 1人1台端末の活用～言語活動、交流・遠隔授業 <p>□ 道立教育研究所と連携した研修会</p> <p>①小学校外国語教育充実研修</p> <p>〔目的〕 コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する外国語教育授業づくりのねらいや進め方について理解を深め、実践的な指導力を高めるとともに、自校及び域内の授業の改善・充実に貢献する。</p> <p>〔対象〕 小学校教員</p> <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の課題の明確化 ・ これからの小学校外国語教育 ・ 授業参観と協議 <p>②小学校外国語の単元づくりレベルアップ研修</p> <p>〔目的〕 コミュニケーションを図る資質・能力を育成する外国語活動・外国語の単元づくりについて理解し、児童に目指す資質・能力を育成するための目的、場面、状況を明確にした言語活動を構想する力を身に付ける。</p> <p>〔対象〕 小学校教員</p> <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校外国語活動・外国語の単元づくり ・ 目的、場面、状況を明確にしたファイナルアクティビティの構想

③英語力ブラッシュアップ研修（小）

〔目的〕

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための授業づくりに向けて、コミュニケーションの目的、場面、状況を明確にした言語活動のデザインや、児童と英語での意味のあるやり取りができる英語力を身に付ける。

〔対象〕

小学校教員

〔内容〕

- ・オールイングリッシュによるワークショップ

④中学校・高等学校外国語教育充実研修

〔目的〕

コミュニケーションを図る資質・能力を育成する外国語教育の授業づくりのねらいや進め方について理解を深め、授業の改善・充実に向けて実践的な指導力を高める。

〔対象〕

中学校・高等学校教員

〔内容〕

- ・自己の課題の明確化
- ・これからの中学校・高等学校の外国語教育
- ・授業参観と協議

⑤英語力ブラッシュアップ研修（中・高）

〔目的〕

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための授業づくりに向けて、コミュニケーションの目的、場面、状況を明確にした言語活動をデザインし、授業を実際のコミュニケーションの場にするための英語力を身に付ける。

〔対象〕

中学校・高等学校教員

〔内容〕

- ・オールイングリッシュの講義及びディスカッション

⑥学習評価の充実に向けた教科研修（高等学校 英語）

〔目的〕

観点別学習状況の評価についての理解を深め、パフォーマンステストとルーブリックについての演習等によって、新学習指導要領に対応した授業改善のための高等学校外国語科の実践的指導力の向上を図る。

〔対象〕

高等学校教員

〔内容〕

- ・新学習指導要領に対応した学習評価及び授業
- ・パフォーマンステストとルーブリックの工夫改善
- ・実践発表及び協議

□ 初任段階教員研修や中堅教諭等資質向上研修における教科別研修

〔目的〕

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について理解を深め、指導力の向上を図る。

〔対象〕

小学校・中学校・高等学校教員

〔内容〕

- ・新学習指導要領の理念
- ・英語教育における現状と課題
- ・英語教育における授業づくり

□ 教育課程編成（研究）協議会における外国語科及び外国語活動の授業改善に関する研修

〔目的〕

各教科等における教育課程の編成等に関する研修を行い、実践的指導力等の向上を図る。

〔対象〕

小学校・中学校・高等学校教員

〔内容〕

- ・新学習指導要領の理念
- ・カリキュラム・マネジメント
- ・英語教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

